

矢作川流域圏懇談会通信

H30 市民部会編 vol.1



発行日：平成30年10月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第1回市民部会を開催しました！

より市民目線での活動を活発にするため、今年度より市民会議から市民部会という名称でリニューアルいたしました。今回のWGでは、これまでの流域連携テーマやイベントの活動状況、今後の活動方針についての意見交換を行いました。

日時：平成30年8月30日（木）14:00～16:00
会議場所：豊田市崇化館交流館4階 第2会議室
参加者：16名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 昨年度までの流域連携テーマとイベントの実施状況・今年度の連携イベント日程について

流域連携テーマ①：ごみ・流木

●昨年度は奈佐の浜プロジェクト委員会が開催した「藤前干潟エクスカージョン」に参加しました。この活動では藤前干潟での清掃活動や名古屋市のごみ焼却施設の見学を行い、ごみを通じて地域の環境を学びました。愛知県主催の「海ごみ減らそうフォーラム」では、猿渡川・家下川でのワークショップを通してごみの実態を確認するとともに、ごみの削減方法についてグループ討議を行いました。

流域連携テーマ③：木づかい

●木づかいライブ・スギダラキャラバンにおいて、流域内外で約40回（平成29年度実績）におよぶ木づかい推進を行いました。昨年度の矢作川感謝祭では、林業に関する歌の披露や高性能林業機械の実演、動く木のおもちゃの展示を行い、地域住民の方に親しまれました。さらに、流域ものさしの活用事例が山部会WG等で報告されました。

流域連携テーマ②：土砂

●川部会や海部会のWGで阿摺ダムにおけるアユの生息環境改善実験の視察を行い、河床のアーマーコート化の改善や生物相の回復状況について意見交換を行いました。また、豊橋河川事務所が取り組んでいる総合土砂管理の現状と、今後の方針について意見交換を行いました。総合土砂管理は、土砂が発生する上流山地から土砂が流出する河口部や海岸までの流域全体の問題を解決していくことを目的としています。今後は総合土砂管理計画の策定に向けて、10個の検討項目の解決を目指しています。この中で、矢作ダムから土砂を排出するための方法の一つとして考案されている土砂バイパスについて注目が集まりました。

流域連携イベント

- | | |
|---------------|-----------------|
| ●矢作川流域圏事例集交流会 | 平成30年 4月15日 |
| ●矢作川感謝祭 | 平成30年 9月1-2日 |
| ●三河湾大感謝祭 | 平成30年 10月28日 予定 |



2. 市民部会の活動のあり方について

山・川・海の部会員が一堂に会し、矢作川流域で生活する住民の視点から、多様な話し合いが進められました。その中で、地域住民が矢作川の情報に触れる機会が少ないことが課題として抽出されました。このことから、情報を発信できる場を市民部会で作成したいという意見があげられました。大きなイベントや体験学習、SNSを用いるなど、様々な手段が提案され、情報の発信方法の検討は今後の活動の中心になると考えられます。

次回の市民部会では、良い面と悪い面を併記した形で矢作川流域圏の現状を表現することを目的としたワークショップ形式での部会の開催を予定しています。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 > 回答)

●昨年度までの流域連携テーマとイベントの実施状況・今年度の連携イベント日程について

- ・草を刈り、竹を伐っていると、一般の人がごみを捨てなくなるため、河川沿いのごみは減ってきている。(伊奈)
- ・流木は切り捨て間伐で捨てられた木もしくは土砂崩れによる倒木、ごみは人間の出したものが大きな構成要素であると考えられ、何が悪影響を与えているのかを明らかにして議論を進める必要がある。(高橋)
- ・ごみが大量に出ている市域の住民にごみの問題を知ってもらうイベントを開催する意欲を示す必要がある。(山本孝)
- ・イベントだけではなく、草刈りや竹の間伐などの体験を通してごみの問題を認識できる場も必要である。(沖)
- ・土砂バイパスで大きな石を流すための工夫などは何か考えているのか。(井上)
 - 土砂バイパスでは、5cm 程度の細かい土砂しか流れないため、それより大きなものは掘削して処理しようと考えている。具体的な処理方法は効率性を考慮しつつ検討していく予定である。(神本)
- ・ダム湖底に有機物が溜まっていると考えられるが、調査は進んでいるのか。(井上)
 - 過去に国土交通省が矢作ダムの湖底のボーリングを行い、堆積物の粒形や有機物の量を調査していた。定性的に有機物が多いという記載があったと思う。(内田)
- ・「総合土砂管理計画の技術的課題に対する検討委員会」におけるこれまでの議論の経過は公表しているのか。(浅田)
 - 豊橋河川事務所が公表している。(神本)
- ・矢作ダムにたまった土砂を山地に捨てていると聞いているが、その土砂を海に運ぶことも検討してほしい。(高橋)
 - 治水や利水に影響を与えないことを大前提として、実験を重ねて様々な方向性を検討していきたい。(神本)
- ・土砂バイパスによって土砂を流す際、水量や流速を調整するのか。(松井)
 - 可能な限り自然な環境に近づけられるよう、効率的な方法を試行錯誤しながら検討していく予定である。(神本)
- ・自分たちの木を使ってほしいのであれば、自ら行動し、木を見る楽しさを広める活動が重要である。(今村)
- ・総合的な矢作川の再構築には、公共事業による大規模な河川整備だけではなく、竹の間伐体験やごみ捨てをやめることなど、地域住民による活動も必要ではないか。(浅田)
- ・流域圏懇談会に関わってきて良かったと思うことは、岡崎市の林務行政が微動だが動き始めたこと。流域圏懇談会の山部会の活動が大きな原動力になっていると思う。(沖)

●市民部会の活動のあり方について

- ・三部会での考え方の方向性が十分に確立されていない。3つの流域連携テーマを統合し、その目標を代表するような標語を設定して取り組むのがよいのではないか。(光岡)
- ・いろんな場所で様々な問題が生じており、それぞれ望みも違うため、全体として見つめるべき理想形を目指して活動すべきだと思う。(光岡)
- ・市民部会の活動として、行政から許可を得て、もしくは事業として公的資金を獲得し、土砂実験を行うことも検討すべきである。(山本孝)
- ・流域圏での生活に不便を感じていない住民は、流域圏の問題について自発的に考えようとはしない。それらの住民に問題を提起する場が必要である。(山本孝)
- ・今の市民は様々な問題を知らされないで生活している。矢作川流域では、そういった問題の原因を解明するために、地域住民と一緒に考えるためのベースを作る必要がある。そのために、地域住民に対して情報を発信できるツールを作りたい。(山本薫)
- ・流域圏で生活する住民は、生態系を大事にして、人間の衣食住や生きるためのエネルギーをどう確保していくかという課題を解決する必要がある。(山本薫)



●振り返り

よかったと思うこと：山川海が少しずつ連携する見通しができたこと。/流域連携の方法について少し進展があったこと。/自由に発言できていたこと。 **よくなかったと思うこと：**時間不足。 **今後取り組んでいきたい活動など：**情報発信。

今後の予定

■第2回市民部会

日時：平成30年10月23日(火) 14:00~17:00 豊田市崇化館交流館4階 第2会議室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

